

活動場所

積水樹脂(株)滋賀工場
(滋賀県蒲生郡竜王町、東近江市稲垂町)



活動目的

積水樹脂グループは、「生物多様性の保全」を社会的責任の重要な一つと捉え、事業所に立地する自然環境に応じた生態系の保全活動の推進と、生物多様性の保全に係る諸団体との連携を深め、積極的な情報発信を目指しています。

活動内容

積水樹脂(株)滋賀工場は敷地内に約34,000㎡の環境保全エリアを有しており、全国的に激減している貧栄養湿地が多数残存しています。土地開発の段階より希少種エリアを設定し、ハッチョウトンポをはじめ貴重な生きものの保全を行っています。竜王・鏡製造所で実施した2015年の生きもの調査では、323種類（植物239種類、動物84種）が確認され、そのなかには33種類（植物19種類、動物14種類）の絶滅危惧種が含まれていました。現在は、環境指標種であるトンポをテーマに生物多様性の保全活動に取り組んでいます。

・専門家によるモニタリング

2015年度より専門家による季節（春・夏・秋）ごとのトンポを中心とした生きもの調査を実施。専門家のアドバイスをもとに課題に沿った保全に取り組んでいます。

・環境省「モニタリングサイト1000里地調査」

滋賀工場（滋賀県東近江市）の貧栄養湿地では2018年4月からNPO法人蒲生野考現倶楽部によるモニタリング調査を実施。（調査項目：植物・蝶・鳥・水質
番外編：トンポ）

専門家のアドバイスをもとに課題に沿った保全に取り組んでいます。

・環境保全エリアにおける観察会

環境保全エリアにおいて、夏休みには従業員の家族向けや、地域の図書館と連携したトンポ観察会を開催しています。

・展示会等による情報発信

地域の図書館での活動パネル展示や環境イベントでの活動事例発表を実施しています。

・地域連携

近隣の企業7社が「生物多様性びわ湖ネットワーク」として、琵琶湖博物館をはじめ地域の様々な団体と連携の輪を広げながら滋賀県の環境活動に取り組んでいます。

現在はトンポをテーマに楽しみながら生物多様性の保全活動を展開しています。

(参画企業：旭化成(株)・旭化成住工(株)・オムロン(株)・積水化学工業(株)・ダイハツ工業(株)・(株)ダイフク・積水樹脂(株))



ハッチョウトンポ



モニタリング調査



夏休みトンポ観察会



琵琶湖博物館 活動展

PRしたいポイント

積水樹脂(株)滋賀工場に残存する貧栄養湿地という特殊な環境を維持するため、土壌の掘り下げや外来植物の抜き取りなどを積極的に実施しています。また、保全エリアでは「除草剤は使わない」、「トンポの発生時期は除草しない」など生態系にあわせた管理を継続しています。また、地域や近隣企業と連携し、環境学習やノウハウの共有を行うなど生物多様性保全の推進に取り組んでいます。

活動効果、今後の展開 等

これまでの活動により、2020年度には過去最多となる308個体のハッチョウトンポを確認しました。2021年度では個体数は減少したものの、新たな生息地の増加につながっています。また、敷地内にて12種類の絶滅危惧種を含む54種のトンポを確認しています。この希少な環境を維持するため、今後もモニタリングを継続し、地域や近隣企業と連携し、生物多様性の保全活動と情報発信に取り組んでいきます。